11月26日 土曜日 25日発行
昭和30年 西暦1955年
発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話 代表 京橋(56)8646番
直通 販売(〃)0437 広告(〃)3995
編集局 港区芝金杉川口町13
電話 代表 三田(45)8136番
振替貯金口座 東京170071番

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES
第3290号 (昭和24年6月27日 第三種郵便物認可・昭和24年5月27日 国鉄特別扱承認 第232号)
(中華郵政台字第637号執照登記為第2類新聞紙類・内政内鎖部報備内台警字第0136号)

あすの暦
11月26日(土)
旧10月13日
月齢 11,6
日出 前 6,26
日入 後 4,30
月出 後 1,45
月入 前 2,11
満潮 前 2,10 後 2,00
干潮 前 8,15 後 7,05
(中潮)

天気予報
今晩 北よりの風晴たり曇ったり。
明日 北のち東の風曇時々晴。

4版

粋人酔筆



あけびの味

滝川政次郎

今から数えると、もう三十年も前のことである。秋もたけなわになった十月の末、私は同じ大学につとめていたK教授、M教授、S教授の三人と、伊香保の秋色を探りに出かけた。金山紅葉して、えもいわれぬ景色である。私は伊香保にあった有賀長雄博士の別荘を借りて、一夏家族といっしょに暮したことがあるので、この地には馴染があった。尾崎紅葉の小説に出てくる旅館とか、七つ岩、千人風呂、源三位の岩屋、遊女高尾の遺跡とかをめぐって、だんだん奥まで探勝した。

とある坂道のかたわらで、山でとれた『あけび』の実を売っていた。あけびは伊香保の名物の一つで、そのつるで編んだ籠は、土産物屋にいつでも売っているが、あけびの実を売っているのは珍しかった。S教授が早速それを買った。われわれは、それを噛りながら、道を歩いた。するとS教授が突然妙なことをいい出した。『君、このあけびの味は、女のおっぱいの味に似ているよ』というのである。いかにもあけびの汁は、乳のような色をしている。しかし、その味が人乳の味に似ているとも思えなかったので、私は生返事をして、そのまま聞きすてにした。

やがて夕景になって、われわれはとある温泉旅館に着いた。例によって浴衣に着替え、一風呂浴びて、食膳に向った。三人ともあまりいける口ではないが、愛嬌のよい女中がお酌をしてくれたのと、お腹がすいていたのとで、かなり徳利を倒した。話の合う友達同士のことであるから、話は大いにはずんだ。談論風発の嵐がひとわたりすんだころ、手形法の大家であるM教授は、いささか重い口を開いて、『S君、君はいくつの歳までお母さんのおっぱいをしゃぶったんだ』と訊いた。私はおかしなことを訊くなと思った。するとS教授は『さあ、幾つぐらいまでだったか、はっきり覚えていない』と答えた。M教授はすかさず『君は七つ八つまでおっぱいをしゃぶっていたのか』とたずねた。S教授は『いやそんなことはない。僕と妹とは二つ違いだから、三つの歳には妹が生れていたはずだ。妹がお乳をのみ出してからは、僕はお母さんのお乳を飲ませてもらえなかったと思うよ』といった。するとM教授は真顔になって『君は記憶がいいね。三つのときに飲んだおっぱいの味をよく覚えているね。僕は五つまでの記憶は全然ないよ』といった。



この問答を黙って聴いていたK教授は、突然横から口を出して、『S君、君は奥さんのおっぱいを吸ったな』と叫んだ。そのとん狂な声に、私もM教授もドッと笑った。K教授は調子にのって、『さあどうだ、どうだ、それに違いなかろう。誰がお母さんのおっぱいの味なんて覚えてられるものか。真すぐに白状しろ』と攻め立てた。私もK教授の尻馬に乗って、『人乳の味のわからん者が、それと、あけびの味とを比較し得る道理がないじゃないか』と、理詰めに迫った。どこかウブなところのあるS教授は、真っ赤な顔をしながら

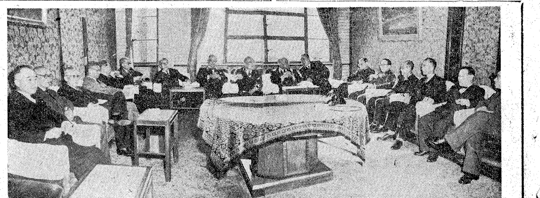
『実は妻がね、おっぱいが張っていたいというので、吸ってやったことがあるんだ』と白状した。われわれ三人は、『とうとう白状させたね』といって、凱歌をあげ、『どうだ、うまかったかね』などといって、S教授をからかい、大はしゃぎにはしゃいだ。

それでやめて置けばよかったのだが、いささか酔いがまわり過ぎたK教授は、『奥さんのおっぱいが張ったわけではなかろう。君は毎晩それを吸うんだろう』と、しつこく追及した。S教授も最後までそれを否定しつづけてくれればよかったのだが、正直で嘘のつけない彼は、最後に『うん、そうだ』と肯定してしまった。

これにはさすがの教授連も顔色なく、開いた口が塞らなかったが、S教授は『藪を突いて蛇を出すな』というような顔をして立ち上った。



第三次鳩山内閣、けさ初の定例閣議
写真は右から根本官房長官、太田、船田、吉野、村上、一万田、河野、大麻、鳩山首相、重光、牧野、清瀬、馬場、小林、高碕、正力、倉石の各大臣 (首相官邸で)



内外施策の処理方針

けさ初の定例閣議で決定

第三次鳩山内閣は二十五日午前十時十五分から首相官邸で鳩山首相以下全閣僚出席して初の定例閣議をひらき、新内閣として今後に臨む内外施政の諸問題について処理方針をきめた。時に当面の臨時国会対策として地方財政問題、期末手当問題についてては早急に関係閣僚ならびに与党との調整を行って結論を出す必要があることが確認された。このほか

一、首相演説は先の申合せどおり所信表明にとどめ、休会明け冒頭に行う。

一、外相の外交報告はこの際、先の特別国会終了から今日までの外交案件を報告することが筋道であるとの意見も強く、これを再考すること。

一、補正予算案は今まで通り臨時国会には提出しない建前をとる。

一、三十一年度予算編成について蔵相として一応のスケジュールならびに編成基本方針をなるべく早く閣議に諮ること。

一、特別国会から持ち越しの砂糖バナナなど特殊物資の超過利潤吸上げについては糖価ならびにそのほか関係農産物の価格安定の見地から特別国会で廃案となった法案を再検討して通常国会に提出する必要があること。

一、通常国会の召集日を大体十二月二十日ごろとして準備を進めること。

などについて意見の一致をみた。なお前内閣時代に設けられた防衛関係閣僚懇談会ならびに対日請求権問題閣僚協議会は引続き今後も開くことを了承した。

日ソ交渉 本格再開は来年
首相 松本全権と協議

鳩山首相は二十五日午前九時四十分松本全権を永田町の首相官邸にまねき、日ソ交渉に関する最近の情勢を聴取した。席上、首相はマリク・ソ連全権のロンドン帰任の時期および現在ロンドンで行われている日ソ両国の事務折衝の状況を質した模様である。会談のあと松本全権は次のように語った。

首相が最近の情勢をきかせてくれとのことで説明した。特に新しいことがあったわけではない。私の帰任時期はまだはっきりしないが、マリク全権は国連総会が終っても暫くニューヨークに滞在する模様なので来月の中頃になるかも知れない。本格的な交渉が再開されるのは順調にいって来年に入るのではないかと思う。

健全財政を強調

蔵相、予算編成方針説明

一万田蔵相は二十五日の定例閣議で三十一年度予算編成について新内閣発足いらい初めて発言し、党側との折衝を開始するむねを明らかにして各閣僚の了解を求めた。これにより明年度予算はいよいよ具体的な編成に入るが、蔵相としては諸般の情勢上経済の正常化を促進するため健全財政を強調する意向である。

蔵相は閣議終了後午後二時から与党政調会と同三時から太田自治庁長官、水田自民党政調会長と三者会談を開き、臨時国会対策として地方財政の赤字処理について話合い、地方交付税の交付税率引上げは補正予算を必要とするのであくまで避け資金運用部資金からの融資で事態を乗切りたい意向を伝えるが、党と自治庁側にはその方針に反対する意見が強いため同日の折衝はかなり難航するもようである。

自民党両院常任委員長会議

自民党の両院常任委員長会議は二十五日午前十一時すぎ岸幹事長ら党執行部も出席して院内で開かれ、臨時国会対策を協議した。同党は保守合同による新党の発足にともない両院の常任委員長を更迭する方針であり、同日の会議でもこの問題について話合いが行われた。

与党独占に反対

衆院常任委員長 社党国対委で決定

社会党は二十五日午前の国会対策委員会で国会役員、中国人引揚げ問題、北海道のオネスト・ジョン演習問題などについて次の方針をきめた。

一、中村自民党国対委員長から申入れのあった衆院常任委員長の交替と新常任委員長を与党が独占するという点については、国会運営は与野党共同の責任で行うべきであるとの建前からこれには応じない。従って社会党所属の常任委員長は交替もしないし、そのポストを与党に譲らない。

一、衆院特別委員会を行政監察、選挙法、引揚げの三特別委に限定することおよび委員長の与党独占には応じない。特別委員会は従前どおり貿易、補助金の二委員会を加えた五特別委員会とし委員長は従来どおり選挙法と貿易は社会党が確保する。

一、興安丸の中共人引揚げ問題は本人の自由意思で帰国させるべきである。この際狭進山氏ら五名の起訴はやめて一緒に帰国させるべき旨政府に申入れる。

一、北海道におけるオネスト・ジョン演習に反対する。

サッソウ新大臣 ③
建設大臣 馬場元治氏

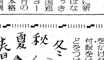
〝張り切ってやるョ〟
明けっ放しで大喜び

○…『ヤアヤアありがとう』五尺五寸、二十四貫の巨体にふさわしい丸味を帯びた太い声である。大臣になったことは『たしかにうれしいですな。選挙区の支持者が僕本人より喜んでいてくれてネ。もう祝杯をあげて、その席から声を聞かせて呉れって電話かけてくるんだよ。ありがたいなあー』とほんとうにうれしそうに〝ロマンスグレー〟の房々した髪に手をやる。こんどの保守合同では信念的に推進した陰の一人でその功績を買われ、緒方氏の推せんで大臣を射とめた。戦前派でありながら物欲しそうな顔をせず、コツコツやる温厚な努力型が買われて、汚職につながりやすい〝建設〟に回された。

○…『ブンシュンタネを惜しめば国亡ぶという言葉がある。汚職の行われる国は亡ぶという意味だが、昔の政治家は私財を投げ出しても立派な仕事を残したいという気概があった。念願の保守合同のできた今日こそ下手な政治はできない。保守に予備軍はないからね』と口調も段々熱をおびてくる。『具体的なことは党ともよく相談してやっていくが、やりたいことだらけだ。予算のワクもあるし、大局的にみて判断していくさ。とに角ハリキッてやるよ』息子さんたちのいう〝八時二十分〟眉がちょっとつりあがる。

○…『幸いボクは丈夫でネーこの年になるまで病気らしい病気をしたことがないんだよ。酒はとうとう覚えられなかった。ボクの親父は酒豪だったんだが、おふくろの系統を引いたのかも知れない。これは国の名物だよ』といってカステラをさかんにすすめる。就任祝に新宿の菓子屋のおやじがどっさりくれたんだそうだ。玄関にはコモかぶりが一つと酒、ビールが山のように積重ねてある。『こんどは仕事でなく遊びにおいで』と愛想がいい。三男二女のよきパパさんである。

春夏秋冬



ぼつぼつ新年号雑誌が書店に顔を揃えるころになったが、子供雑誌は昨年に輪をかけた付録合戦だという。最高九つの付録をはじめ、どれも四、五冊の別冊などをつけて子供心をキャッチしようと懸命な気構え、お陰で取次店などは、収容しきれずバラックの倉庫を急造するという騒ぎ。

付録ブームの中心は、やはり漫画の別冊だそうな。だからこそ子供漫画家は編集者に押しかけられ、各社クジ引で、順々に作者をカン詰にしては描かせているというし、編集者を多勢待たせておいて、一コマずつ描き、それぞれ渡してから二コマ目にかかるというサムライまであるという。一冊分で二、三十万は稼ぐのだから、ひと区切りつけると編集者を赤坂あたりに集めてひと騒ぎするとのウワサも本当かも知れない。

漫画付録ブーム

それほどまでにしてつくる子供漫画は、大人が見てもなかなか面白いものが少くない。ターザンのような冒険ものや豪傑ものがほとんどだが、単にバカ強いだけでなく、情にもろいという描写などもソツなく挿入されてある。画面も映画的で、大人もの漫画が、逆に教えられる点もあるくらいなものもある。

かつて、『のらくろ』『冒険ダン吉』などの漫画や、山中峯太郎とか南洋一郎の冒険物語に血をわかしたいまの大人であれば、冒険漫画に夢中になる子供の気持はよくわかるし、読んでも害にはなるまい。ただ実際にいわゆる俗悪漫画も多いのだから、その選択に注意すべきはもちろんであろう。問題は、一部の良心的子供漫画家たちが、この空前のブームにまきこまれ、濫作のあまり作品が低下してくるという懸念であり、現にその兆候はあらわれつつある。それでなくとも子供漫画といえば俗悪だときめつける連中が多いのだから、編集者もこの辺で反省、〝よい子供漫画〟をこれ以上減らさせぬように、子供たちのためだといいたい。

李ライン問題で韓国に抗議
国際自由労連

全日本海員組合では先に国際自由労連に対し、韓国の李ライン問題について抗議警告されたい旨を打電したが、二十五日同労連オルデンブルック書記長から、韓国労働連盟を通じて韓国政府に抗議した旨つぎのような返電があった。

国際自由労連は日本船員の抑留と日本船に対する発砲について韓国労働連盟にたいし、韓国政府に抗議するよう督励した。

今夕日伊共同声明発表
特別円、文化交流

来日中のマルチーノ伊外相一行のマッシモ・マチッストラーチ公使はトラーコ駐日大使とともに、二十五日午前十時外務省を訪問、原田駐伊大使、寺岡欧州参事官と会見、特別円、文化交流などの問題について懇談した。この結果、同日午後四時鳩山首相および重光外相がマルチーノ外相と会談した内容について共同コミュニケを発表することになった。懸案の特別円問題はその中でマルチーノ外相の来日を機として誠意をもって解決にあたることに意見が一致したという程度に触れる模様である。

市況
ジリ安商状

政局の成行きや東証労組の動きなどをながめて見送り人気が強い折から一両日来の大証券の金ヘン買も一服したので地合はやや気重く全般は小口の整理売物に押されて低調なジリ安商状を続けている。特定株は東海上など主力株に山一買がみられたが全般は低調な動きを改めずマバラ売に軒並み保合ないし一円安と小甘い。雑株は造船株は早くも利食売に一服するとともに電機、資源、化学株の一部に小口の整理売がみられて三円内外小甘いもの多く二、三出遅れの低位株が物色されたほかは概して弱含み商状であった。

▽高い株=蔵王鉱八円、関東レース、朝日石綿五円

東京株式仲値
□新株落 △配当落
(25日前場終値)

特定銘柄							
東海上	235	日立	77	三菱鉱	50	台糖	263
郵船	63	東芝	66	古河鉱	76	明糖	119
新三菱	82	三洋電	294	同和鉱	137	甜菜糖	119
日清紡	250	松下電	160	住友炭	60	野田	200
味の素	290	八電	170	三井山	59	森永	179
三越	272	東洋紡	162	北海炭	63	明菓	174
三菱地	462	鐘紡	127	日鉄鉱	383	日水産	98
平和不	209	富士紡	120	商船	46	昭和産	114
日東化	100	大日紡	84	三井船	50	東洋醸	90
日産化	92	日東紡	70	西武	一	合同酒	151
三菱化	121	片倉	30	藤田興	206	三楽	132
三井化	164	東邦レ	129	飯野海	63	大阪鋳	164
協和醗	141	帝麻	36	日銀	一	三井物	161
東合成	148	中繊	43	東銀	55	第一物	150
三共薬	168	帝人	161	三井銀	一	白木屋	一
信越化	94	東洋レ	212	富士銀	87	高島屋	102
東高圧	157	三菱レ	135	日証金	68	大丸	一
昭電工	118	倉レ	136	安田火	94	日活	71
日本曹	109	旭化成	390	大正海	84	松竹	208
旭電化	88	山陽パ	147	住友海	一	東宝	一
三菱造	100	日本パ	119	千代田	70	大映	169
三井造	130	国策パ	138	東電	612	王子紙	234
三菱重	68	東北パ	129	関西電	669	十條紙	275
石川重	98	日毛	234	鋼管	86	本州紙	94
精工	138	帝石	93	日製鋼	74	三菱紙	85
東洋ベ	126	日石	111	八幡	62	北越紙	64
日立造	63	昭和石	167	富士鉄	57	日セメ	154
浦賀	65	東燃	155	神戸鋼	58	磐城セ	260
日本光	138	三菱石	155	日特鋼	104	小野田	90
キヤノ	160	大協石	164	日軽金	159	富士写	149
理研光	54	三井金	108	日金工	82	小西六	106
三菱電	83	三菱金	114	日本粉	128	横浜ゴ	150
		日鉱	109	日清粉	125	旭硝子	166
		住友金	113	日本ビ	166	三井不	770
				朝日ビ	183	三井倉	83
				キリン	202	渋沢倉	一
				宝酒造	125	東洋埠	201

内外抄

全人口九千万に迫り、この五年間にも六百万の増加。あきれた無分別な国民と政府。

◇

健保の赤字対策から保険医の監察が厳重になる。仁術ならで魔術を使うのが多いらしい。

◇

三蔵法師、古骨になっても『東遊』したり、台湾に旅したり。やっぱり三蔵法師はえらいお方。

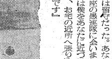
◇

公労協が年末闘争でハデにアドバルーンをあげる。地についたやり方をしなくちゃ。

◇

外交官未亡人の哀れな親娘心中の話。世間の風はあまりに強く、国の保護はあまりに弱い。

ないがい川柳 吉田機司選



くしゃみする顔を床屋はもてあまし 三鷹 片寄 鮭郎
人生の門出へ重い高島田 市川 川崎火呂志
出前持ち配達先をフト忘れ 江東 禰池しげこ
やじ馬がやじ馬に聞く人だかり 北 時田 柳翠
探訪へカメラ少しも躊躇せず 千代田 南 渡波
編物復妻真剣に考える 足立 矢吹 日進
【賞】たまに出て母と座れるパスを待ち 江東 右近 左近

お知らせ

本紙購読ご希望の方は直接本社販売部に電話、またはハガキでお申込み下さい。なお最寄りの読売新聞出張所にお申込み下さっても結構です。
内外タイムス社販売部 電話京橋(56)〇四三七番

青春無宿 (199)
大林 清
下高原健二 画

焔 (五)

『どうしてあなたはこんなところにいたんです』

野次馬のひしめきの外へ出ると、次郎はあらためて光代であることをみとめたようなきき方をした。

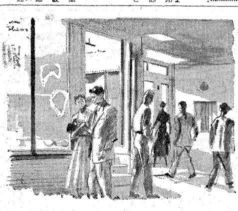
『僕はあれから池袋のあなたの家へ行ったんですよ』

『ほんとですの?』

光代ははじかれたように顔をあげた。

次郎はうなずいて、

『あなたは留守だった。あなたの代りに銀座の愚連隊に会いましたよ。奴等は僕をあなたに近づけまいとして、お宅の近所へ張り込んでいたんです』



あまりに意外すぎて、光代は疑問を問いかえしも出来なかった。

『わかりませんか、僕はあなたを大渕なんかの手で、堕落させたくないんです。あなたは今、金を必要としているか知れないが、金は一時の必要で堕落は一生の堕落です。金がなくって餓死した話は聞いたことがない、その最後のどん詰りまで行く気なら、まだまだ方法はいくらだってあるんじゃないですか』

光代はそんなに熱のこもった次郎の言葉を、今までに聞いたことがなかった。風のまにまに浮遊していた自分という根のない草を、いきなり逞しく大きな手にすくいあげられたような気がした。なぜ次郎がそんなことまで知っているのか訝る余裕はなかった。

『あなたはもう、大渕のところへなんぞ行かなくたっていいんです。大渕の手は、多分明日になったら後ろへまわりますよ』

次郎は白いきれいな歯を見せて笑った。

『どうしてですの?』

大渕は警察へ引かれる——次郎の言ったその意味が、光代にはわからない。

『銀六アパートの火事は放火です』

『まァ!』

光代は息をひくようにして、運んでいた足さえとめた。

『僕がこの眼で見たんです。裏手の露路からアパートの方へはいって行こうとすると、飛び出して来た奴があるんです。名前は知らないが顔は知っている愚連隊の仲間でした。その時はもう裏口から燃えだして、下の誰もいない部屋の窓が火を噴いていました。もし放火でなかったら、そいつが何も怒鳴らずに逃げる筈はないんです。愚連隊は大渕の手先に使われていたし、大渕はあのアパートが焼けてしまえば、自分の名義になっているあそこの土地を、何千万円だかで売りつけることが出来るんです』

次郎の口調には峻烈な論告をする検事のような確信があった。光代はそれを信じない訳にはいかない。木島武吉が大渕の持っている銀座の土地の売買で、一と儲けするように言っていたことが、ふと記憶の底から浮きあがった。

『大渕はいないかも知れないが、これから奴の事務所へ行ってみましょう』

二人は新橋演舞場裏の河岸へ出ていた。

ふりかえって見ると、薄白く立ちのぼった煙を、火事の残映が照らし出しているだけで、焔は見えなくなっていた。

河岸には立ちどまっている野次馬もなく、二人が築地の側へ渡って行く橋のむこうは暗かった。







都内版 "落葉日記" 二人女

忍び足にやってくる冬の足音。気の早いキャバレーではXマスの音楽さえ奏でているが、街路樹から落ちたワクラ葉を転がす歩道の風はあまりに冷たい。その東京の片隅に"転落の詩集"の悲しさといきどおりを秘めて、いつめぐり来るかも知れない行末をジッとみつめている人の影がある―かつてはいかめしい警察官の妻でありながら、夫の死後都内のバー、飲屋を転々、いま外人オンリーのクラブに働くS子さんと、N県代表のピンポン選手として国体にまで出場した輝かしい過去をかくし、夜の丸ノ内界隈に外人酔客の袖をひくQ子さん（ともにとくに名を秘す）である。以下"落葉日記都内版"と題して巡り来る酷寒への前奏曲としよう。


お客さんにビールを注ぐS子さん

いつ春は巡り来る

どうせ私は酒場の女
"白バイ"で殉職した夫
S子さん

○…新橋の夜にネオンが灯って、酔客の姿が多くなるころ、Rクラブには外人客が押しかけてくる。その一人々々に愛想よい笑顔を向けているのがS子さん（三七）だ。外人のさす一杯三百円のカクテルをガブリと飲む姿は海千山千の女給を思わせるが、彼女はこれも商売と割り切っていう。『外人に一杯飲ませれば百円の歩合がもらえるからなのよ』彼女は酒が好きでない。歩合をもらいたいばっかりにガブ飲みしているのだ。

『外人なんて大キライ、音楽もジャズやマンボより、民謡の方がずっといいわ』ともいうS子さんである。要するに外人専門のクラブは固定給、歩合を含めて一晩に最低二千円にはなるというので、金になるならなんでも……というS子さんには秘められた過去があった。

○…S子さんは謹直な警察官の二女として育った。東京のG女学校を卒業すると、両親のすすめで警視庁交通一課警ら隊に勤務するK巡査と結婚した。S子さんが十八才の時である。『世の中のことなどは何にも判らず、ただ親があの人と結婚しろというからしちゃっただけ』といってはいるが、警ら隊といえば"警視庁の花"と呼ばれる白バイのお巡りさんだ。サン・グラスに革の手袋、爆音もサッソーとオートバイにまたがる若きK巡査に、彼女は乙女らしい憧れを抱いて結婚したという方が本当らしい。一年後、十九の若さでS子さんは母親となった。親子三人水入らずでオママゴトのような家庭の楽しさを味わったのもその時期である。

○…四年経ったある日、『じゃ、行ってくるよ』と元気に家を出たK巡査だったが、わずか数時間後浅草付近でスピード違反のタクシーを追跡中、横から飛び出したオート三輪車に激突、警察病院に収容され、S子さんがかけつけた時は物いわぬ死体となっていた。『顔は見ない方が良いですよ』と夫の上役や同僚はいってくれたが、無理に白布をとったS子さんは、ムザンに変りはてた夫の形相に、ヘタヘタとその場にくずれ落ちてしまった―昭和二十六年六月半ばの出来事である。

愛児だけが生命の綱

○…それからS子さんの転落の詩集がひもとかれる。両親はS子さんが結婚してから相次いで死亡し、頼れる者は上野に住む姉さん一人、姉さんとて嫁に行った身で、S子さん親子をひきとる程の力はない。働く決心をしたS子さんのために和子ちゃんをあずかるのが精一ぱいだった。生活費、アパートの家賃、和子ちゃんの養育費、女一人の力でそれだけの金を作り出すカタギの仕事があるはずがない。当然のコースでS子さんは新橋のスタンドバーの女給となった。心の支柱を失ったS子さんにとって、酒と女を求めて集りくる男達の酔態の渦の中にいることは、無意味なものとは知りながらせめてもの慰めになった。

『どんな時にも男と女は必要だ、さもなければ男は半分で女は無だ』映画で覚えたような殺し文句で簡単に男に身をまかせたのも、心の均衡を失ったS子さんの弱さからといえよう。

一度そういうことがあった後は『どうせ私は酒場の女だ』とヤケも手伝って次々と誘われるままに男に身をまかせた。同時に少しでもみいりの多い所を求めて転々と移り変り、最後にたどりついたのがRクラブだった。『しかし、一日に一度は姉さんの家へ行って娘の顔をみないと気がすまないの』と訴えるS子さんは、自分は転落の詩を口ずさみながらも、和子ちゃんだけが消えそうな生命の灯をかき立てる支柱であるようだ。


有楽町にたむろするQ子さん

警察でもナゾ
四番街で名うてのQ子さん
かつては卓球選手

○…毛皮のハーフ・コートに白のスカーフ、グレイのタイトスカートをすっきり着こなして、Q子さんは今夜も4ストリートの一角に佇んでいる。黒エナメルのハイヒールをはくまでもなく、五尺三寸、十三貫の体格は日本人離れした見事さだ。東京4ストリートといえば、人も知る夜の姫君達の職場。『もったいないネェ』と口惜しがる日本男子は多いがQ子さんはそんな輩には目もくれない。それも道理、Q子さんのボリュームとテクニックのうまさは4ストリートはおろか、遠くサンフランシスコまで勇名（？）が響いているとさえいわれる。Q子さんはN県出身、かつてはピンポンの選手として国体にまで出場したことがあるときけば、彼女の玉さばきの鮮やかさは、なるほどと納得出来ないこともない。

○…たまたま所轄署の某巡査がQ子さんと同県の出身であったことから彼女の身許が知れたわけだが、彼女自身はそのことにふれると柳眉を逆立てる。Q子さんの姿が4ストリートに見かけるようになったのは昭和二十七年ころからだが、現在まで検挙されたのはわずかに二回、いずれもわずかの罰金刑で釈放されている。持ち前のフットワークを利してなかなか尻っぽをつかませなかったのだ。当局の取調べに対しても、フテくされとも違う冷静な態度をくずさず、係官に好意さえ持たれている。

『オマワリの助平』『あたいのモノをアタイがどう使おうと勝手だろ』等々、悪態の限りをつくす同僚を尻目に、婦人房の片すみで、あきらめとも嘲笑ともつかぬ冷たい笑いを浮べながら、静かに座ったままの彼女の存在は警察でもナゾとされている。

○…『どうして現在の環境に落ちたの』『家庭の情況は』などの問に対しては言を左右にして絶対に口を割らぬそうだ。何かいうと『男なんかあてになるもんか』と噛んで吐き出すようにいうQ子さんの言葉の中に彼女のナゾをとくカギが含まれているのかもしれない。――彼女の姿は今宵も4ストリートにみられる。

ネオン街
……歳末控えて活況……

銀座ネオン街はこのところ"新装開店"のニューフェイスがあらわれるかと思えば、近づくXマスのカード売りで歳末をひかえてテンヤワンヤ。恒例のXマス・カードは女給に一人当り十枚から五十枚もの責任制を割り当てているようだ。値段は店によって違うが喫茶サロン、アルサロでは千円から千五百円、キャバレー、ナイトクラブも千円から二千円程度。なかには五千円なんてベラボーな店もある。一番売れているのはやっぱり千円券二千円券のようでパトロンなんぞはそれを十枚も買わされる。ウデのいい子はもうすでに五十枚、百枚と売りこみに成功したともいう。リベートが入るから売る方も一生けんめいという次第。さてこれから年末にかけてのキャバレーだが、美人を揃えた店は銀座八丁目のG・K。ここは"美松"の姉妹店というわけでショウにはずいぶんと力を入れている。欲をいえばバンドに力を入れたいもの。（S）

ネオン街の"射的屋"



『射的屋』といっても鉄砲打ちのことではない。ネオン街の女給さんを狙い、一発でしとめるというドンファンのことだが、最近この射的屋が、またチョウリョウし始めた。というのはXマス景気に備えて、業者は女給さん募集に大童、続々とニューフェイスが増えているので、そのニューフェイスをしとめようとするわけ。そこでその手口の一つを紹介しよう。

入ったばかりの客のない娘が、Xマスパーティ券をかかえ込んで困っているのにつけ込んで『僕が二、三枚買ってあげよう、今日はお金持って来なかったから、この次ね…』と、まず喜ばせておく。さて二、三日してから『この前は失礼したね』と、踊ったり飲んだり、適当に遊んで帰る支度を始める。女の子はあわてて『この前、Xマス券買って下さるっていうお約束だったけど』とくること必定。『ああ、忘れてた、財布とカバンを前に寄った寿司屋へあずけて来ちゃったよ。そこにいるから後でおいで』と誘い出す。寿司屋でサンザン飲ませて酔わし、あとは♨へー。翌日ケロリとした顔で『君と約束したパーティ券ね、ゆうべ使っちゃってお金がないんだよ。すまんな、この次にね…』というわけ。



風流世界譚
……（南ヴェトナム）……

何が商売かわかりませんが安南、中国、フランス、スペイン、フィリピンの血が混っていると自称する混血娘のイヴォンヌは、打続く内乱などどこ吹く風、毎晩キャバレーに現われます。ところでここ数年、彼女の同伴者は再三変りました。戦争中は日本人商社員だったのですが終戦と同時にイギリス軍人になり、フランスの勢力が強くなるとフランス人、ホー・チミン軍が強くなると越盟党要人とひそかにランデブーしていたとみえたのも束の間、南北ヴェトナムに分れるとこんどは安南人という調子。『よくもまあ、愛情をあっちこっちバラ撒けるものだネ、君もそろそろ身を固めることを考えなくちゃ』とキャバレーの支配人が同情半分、意見半分にいうと、『ネ、おじさん、南ヴェトナムはこれからどうなるの？』『さあね、統一選挙って約束だけれど、こじれた場合には国連の管理ってことになるかも知れない』これをきくとイヴォンヌは手を打って『まあステキ、すると相手はよりどりみどりってワケね』

モダン歳人記
蛇性の淫の秋成

文化七年十一月二十六日、江戸時代の国学者上田秋成が七十五才で没した。彼は大阪の商人の家に生れたが、医を業とし俳諧や国学を研究し、創作、随筆、古典論等の著述で知られている。

その著『雨月物語』は明和五年に書かれたもので『白峰』以下九篇の和漢の伝説等によった妖怪談を収めたもので、その中の『蛇性の淫』は谷崎潤一郎氏がかつてシナリオを書き製作されたこともある。

紀の国三輪ガ崎に住む豊雄は、雨の日に新宮の辺りに住むという県の真女児と契りを結び、彼女から一口の宝剣を贈られた。豊雄の兄はこれを見て権現様の宝物庫で紛失した剣だといって訴え出た。豊雄は役人を案内して、女の住んでいた屋敷へ出かけたが、昨日まであれ程立派だった家は、すっかり荒れ果てた廃屋になっていた。

その後に豊雄は庄司の娘富子の婿になったが、富子は毎晩怪しいものの怪に苦しめられる。そこで徳の高い法師を招き、祈禱をしてもらうと、三尺ほどの白へびが彼女についていることが判り、その法師がこの白へびを鉄鉢に封じこめたという中国渡りの怪談である。（鮭）

あすの運勢　高島象山
=十一月二十六日=

▲一月生―自己を反省し大局に目標を求め自然的に努力して後に吉
▲二月生―気苦労多く不安あり内外共に間違い事起り易い注意肝要
▲三月生―人気や噂に乗ると失敗あり堅実に稼業を守れば無事なり
▲四月生―心静かに自然の成り行きに任せ慎重に進退すれば無事也
▲五月生―気迷い心動き好人の好餌となり迷惑災害を招き易い注意
▲六月生―何事も思いが相反し相違し易いので短気を起し失敗あり
▲七月生―何事も保守的に稼業に精励して利益あり商取引円満なり
▲八月生―何事も成否極端に流れ失態を生じ易い交際外交には不利
▲九月生―一躍進展の義ありて物事自由に向上あり開業改革結婚吉
▲十月生―他意なく自信あることを努力するによろし旅行よろしい
▲十一月生―何事も性急短慮にして事を破る心静かに時機を待つべし
▲十二月生―運気順調にして来達あるも僥倖的の態度は失敗を招く

紅灯美人百景 ⑦
新橋 つるよし つる若



菊は秋咲く花の中で、私の最も好きなものだ。大輪が輪台を覆って、豪華に美を誇るさまは王者のような風格がある。また田舎の粗まつな竹垣に乱れ咲く自然の姿は、いつわりのない可憐な乙女達を想わせる。

日比谷公園の門は、めったにくぐったことはないが、菊花大会と大書された柱に誘われて、銀座へ出かけたついでに、ちょっとのぞいて見た。

さすがに多くの種類をあつめて、けんらん眼を奪うばかりだ。一年の丹精をこめ、工夫をこらした菊作りの、苦心のほどもしのばれる。

そのなかで一際秀でて、大輪数十の黄菊があたかも金屏風のように、輝いているその前に、一人の麗人が無心に見ほれていた。まるで魂を花に奪われたように、佇んでいる姿は、粋でしかも清楚だ。

紫の総しぼりに、折鶴を散らした袷、きりっと締めた織物の帯、いずれの仇ものかと、近寄ってお顔を拝見すると、粋なのは当り前、これなん新橋の踊り手、東おどりの中堅――"つるよし"のつる若さんだった。

彼女は大の園芸趣味、東おどりの合い間をぬすんで、独り菊の観賞に来たという。

踊ったり、歌ったり、酔っぱらったりするだけが芸者だと思ったら大違い、こんなゆかしい趣味のひともいるんだから世の中は嬉しい。

菊を見に来ている東おどりの妓

彼女は園芸、読書などの落着いた趣味のある一方、スポーツ好きでボートを漕ぎ、スケートをやるという。舞踊できたえた体は、スケートをやっても美しいだろう。一度見たいものだ。

えと文　神保朋世

東海毒婦伝
青とかげ（140）
野沢純　土端一美画

街道往来（二）

『婆さん勘定してくんな』
『はい、ありがとうございます、二十四文頂きます』
『ここへ置くよ』
鳥目（ちょうもく）をパラリとおいたちょろけんの与次郎。
『ありがとうございます。お静かに――』
お愛想声に送られて床几を立つと、街道へ出てから何思ったか、与次郎は、いちど田圃へ向ってながながと立ち小便をしておいて、やがて爪先を向けたのは、街道ならぬ茶屋の裏道。

田圃の細い畦道を踏んでゆくと、程なく裏手のささ流れ――丸木の一本橋を渡れば、ちょうど今いた茶屋の背戸を囲んだ裏へ出る。

さんざしの花の咲いている低いイケ垣をめぐらして、すぐその向うにヘチマ棚。

棚の下には、野天風呂が据えてあり、焚口からはもう火の色がチロチロと昼の陽ざしの中に燃え立っていた。

即ち、数日前のたそがれ刻。峠を越えた一人の娘――おりうがようやく辿りつき、闇に咲く夕顔のような白さを見せて、一風呂あびた場所である。

昼日なかから焚きつけてあるのは、通りがかりの旅びとが、足やすめをしたついでに所望することがあるからであろう。

――そのさんざしのイケ垣へ、与次郎はそっと近づいた。

笠の下から覗いて見ると、最前チラと土間で見かけた女であろう。

ヘチマ棚の下の風呂脇に、高脚の洗い鉢を据えて、髪を洗っている。

もろ肌ぬいで、両の袂で乳房をかくし、俯向きになったまま、頻りに洗い粉を使っているのである。

たっぷりとした、ゆたかな黒髪――それ故にあいにくと、顔は見えない。

が、絖（ぬめ）のような、キメのこまかい白い肌が、ヘチマ棚からもれてくる、陽の斑（ふ）の下に、あらわであった。

（うめえものを見た）とばかりに与次郎の目は、思わずそれに吸いつけられた。

イケ垣を距てて、そんな近くに人の目があろうとも知らず、女は無心になって、髪を洗い続けている。

袂の端で包んだ筈の、乳のまろみが、時折こぼれて、ふくよかな胸の谷間を覗かせる。

……与次郎は、ゴクリと唾をのんだ。顔を見たい――と思っているのだ。

洗い鉢に、長く垂れた黒髪が、屏風がわりにそれを遮っているのである。

与次郎は、腰をかがめて、更に垣の下から覗きこもうとした。

その時人の気配がした。

『何をしている！』

だしぬけな一語をあびて、ギョッ！とばかり振り返ると、すぐ真うしろに一人の男が、突ッ立っていた。腰の十手が陽に光った。

『へい――』

『へいじゃァねえ。さっきから、お前そこで何をしている！』

鋭い詰問口調である。全身の血が、逆に流れた。顔が俄かに涼しくなった。

『ここはめったに余人の通る処じゃァねえ。見ていりゃァお前、さっきから川のあたりを、やたらうろちょろしていたなァ。何を捜しているんだ？』

『いえ、別に何にも捜してなんかおりゃせん』

『嘘つけ！ 怪しい野郎だ。調べることがある。ちょいと番所まで来ねえ！』

……垣の内に、髪洗いをしていた湯の音が、いつしかハタリとやんでいた。





斜陽族の悲哀

元領事未亡人母娘の心中

呪われた結核一家

主人、長男を失い、遂に娘までも……

華かな昔に引かえ寂しかった晩年

朝寒むも一きわ身にしみるようになった二十四日早朝、古式にのっとり白装束を着た親娘心中が渋谷にあった＝既報＝母親は元サンパウロ領事浜口光雄氏夫人として社交界の花形だった光子さん(五七)、娘は女学校時代からその美貌をうたわれた芳子さん(三五)で、外交官の家庭といえば、その華やかな生活は昔から女性の憧れの的といわれ、二人の性格もまた日頃から明るい朗かなものだっただけにこの母娘が死を選ばねばならなかったその裏には、斜陽族だけがおちていく痛ましい悲哀の数々が秘められていたようだ。



華やかだった頃の浜口さん一家、後方右から心中した芳子さんと光子さん、その隣俊夫君、前光雄氏

○…白装束をした光子さんと芳子さんは古式通り北枕にして死化粧をほどこし三十娘で過した芳子さんの爪にはマニキュアまでしており、優しく胸で合掌し、その脇には一巻の経文と守刀、珠数が置かれ華やかな生前をしのぶ美しい死顔に鑑識課員はなにか心にうたれるものがあった。何故死を早めなければならなかったのか——

○…枕元にあった関口渋谷署長宛の遺書には『何度もお手数をかけて申しわけありません』と短く認めてあったが、母娘はこの七月にも一度心中をはかった。そのときは芳子さんだけがモルヒネを服毒直後警官がかけつけ二人とも無事に事なきを得たが、死にはぐれた光子さんは警官をつかまえて『なぜ死なせてくれなかったのです』と激しく食ってかかったという。それからしばらくは平穏な日がつづいて母娘はふたたび日頃の快活さを取り戻したかに見えた

交番の前を通る光子さんに『どちらへ?』と警官が聞くといつも『薬屋ですよ』と冗談をいっていたほどで、おかしなことといえば十一月のはじめ芳子さんから『署長の名前を教えてくれ』と電話がかかってきたことや六日に米の配給を取ってから以後はさっぱり音沙汰がなかったということぐらい警察でもまさか母娘がふたたび心中を企てようなどとは夢にも考えていなかった。

○…心中の原因はいまのところ次のような点が挙げられている。その一つは光子さん母娘の家庭が昔の華やかな生活に比べて非常に寂しいものだったということ。一家の大黒柱だった主人の光雄氏が昭和十一年に結核で亡り、続いて昭和十五年に秀才だった芳子さんの弟俊夫君(当時麻布中学四年)がやはり結核で死んでからは、それまでは人も羨む幸福な明るい家庭が、女二人だけ火の消えたような寂しい家庭に変った。しかも光雄氏の死後、しばらくは遺産で楽な生活もできたが、それもいつまで続くはずはなく、また昔かたぎの外交官夫人とその令嬢では商売をはじめてもうまく世渡りができず、しょせんは売り食いで食いつないできたがそれとても限度があって、さいきんでは、極度な生活苦に追い込まれていたという。広い家の中は家財道具もほとんどなく空家のようにガランとしていた。その上運命に見離された母娘の身辺にはどこまでも不運がつきまとい、戦後今度は芳子さんが胸を患って長い病床生活にあったのだった。

○…売り尽された家財道具の中に唯一つ華やかな昔を想い出させるアルバムがあった。一家団らんの楽しい写真や外交官当時の豪華なパーティなど幸福だったかつての生活が、一枚一枚の写真にみられた…後に残された四十三坪の家と五万円の現金は遺言でボダイ寺の港区三田長久寺にまかされることになったが、この家を売り払っても十分何年かの生活費や療養費は出たはずだが…と付近の人々はいっている。芳子さんの女学校時代、(東京女学館)の友人渡辺君さん＝港区麻布本村町一四四＝は『芳子さんの家は以前は亡った弟さんのお友達などが多勢遊びに行ってとても賑やかでしたが、結局その頃の生活が忘れられなかったのじゃないでしょうか』と語っている。昔の華やかな夢を追うがゆえに余りに厳しい現実を前にしてある線以上は身を落しきれなかった斜陽族の悲哀が今度の悲劇を生んだとはいえないだろうか。いまは死体を引き取る身寄りも東京にはなく、寂しい一生を終った芳子さんは、庭に咲き残った僅かの菊の香りに送られて、安らかにあの世へ旅立ったのだった。

都宝くじ当選番号		
◇1等 (200万円)	5組	176238
◇残念賞 (5千円)	1等の組違い同番号	
◇2等 (50万円)	1組	120381
◇3等 (30万円)	2組	149217
	1組	129237
◇4等 (20万円)	2組	168089
	5組	129750
◇残念賞 (2千円)	2 3 4等の組違い同番号	
◇5等 (10万円)		115659
◇6等 (1万円)	下4桁	3497
◇7等 (500円)	下3桁	970・242
◇8等 (100円)	下2桁	18・27
◇9等 (30円)	下1桁	1・3・4

三団体、現地折衝を打切る

腰を据えた華僑

興安丸 完全に釘づけ

【舞鶴発】帰国中共人乗船問題がこじれ舞鶴湾に釘づけられた興安丸は出港予定日以来ついに六日の夜を迎えたが二十五日は現地折衝をあきらめた木内(日赤)和田(平連)加島(日中)の三団体代表が二十四日夜東京に引き揚げたので、現地では何んらの動きもみられなかった。

舞鶴援護局第三寮にいる帰国中共人百五十六名は長期滞在を予定して腰をすえ、午後は中国語の不自由な人やこどものために中国語の学習、合唱会を開くなど平静にすごしている。一方援護局は中共人の滞在が一日延びると七万五千円がかかるため、予算がすっかり狂い、当初用意した五十四万円も残り少くなり、あわてて厚生省に予算追加を求めている。また興安丸も一日五十五万円が無駄についやされている勘定だという。

社、労代議士ら法相へ申入れ

二十五日の閣議前伊藤日中友好協会事務総長、康春松華僑協会理事らと共に首相官邸で牧野法相と会見、興安丸問題について『中共にいる日本人戦犯の帰国に悪影響を与えるから洪進山氏ら五名の同行乗船を許すよう』申入れた。これに対し法相は新任早々なので事情がよく判らないと即答を避け、同日夕刻改めて会見することとした。社会党の長谷川保、木下源吾、高津正道、労農党の黒田寿男氏らは

六千円入り鞄を強奪

自転車に乗った二人組

二十五日午前一時半ごろ葛飾区新宿四の一六一九先で帰宅途中の同町一の九六六会社員桜井徳重さん(五三)は前方から自転車に乗ってきた二人連れの男にいきなり顔を殴られ、現金六千円在中の手提かばんを強奪されたと亀有署に届出た。

国電荒しの置引窃盗を送検

目黒署は二十五日住所不定無職渡辺真雄(三七)を窃盗容疑で送検した調べによると渡辺は昨年一月ごろから捕まるまでに国電山手線、中央線などの電車内、東京、新宿、池袋駅などのホーム、出札口などで乗降客の荷物を専門に置引を働き、自供しただけでも二百件約百万円の荒稼ぎをしていた。

渡辺はさる二十五年九月最初の警察予備隊(現自衛隊)に応募情報班員として勤務、二十七年九月六万円の退職金を貰ったが遊興費に使い果し、悪の道に転落したという。

ドブロク部落を急襲

【川崎発】川崎臨港署は川崎税務署と協力、二十五日午前八時、市内浜町一の二七無職河野キクヨ(五〇)方など七ヵ所を酒税法違反容疑で急襲、ドブロク二石、糀一石、密造器具三十点を押収し河野ら四名を逮捕した。

⑤ 五島慶太氏

大器晩成の相

巨万の富を背負った"象耳"

『このお方は、象耳といって大変な運勢を背負った人じゃ。この耳のバカでかい男は、目先がきいて、要領がよくて、どんな場合にも切抜ける胆の太さと緻密さを持合わせている。政商にでもなったら巨万の富を築き上げるシタタカものだぞ』先生は写真をみるなり、ウーンとうなって、吐き出すようにいった。

『ナニ、東急財閥を一代にして築き上げた五島慶太で、"ゴウトウ(強盗)慶太"の異名もある? そりゃそのぐらいすばしっこさはあるだろう。白木屋騒動で、大詰に乗出して漁夫の利を占めたのなんかいい例だ』

『しかし、この耳の特色は、反面心の素直さがある。ものにあたって緩急の度合よろしきを得て、あるいは強く、あるいは弱く、ぶつかるから抵抗は少い。おまけに猿真似が上手で、人のやったことを素直に受入れるから、先輩には親しまれ、同輩にはなつかれ、後輩からは尊敬される』とベタぼめである。なるほど、走っている鉄道の上に跨線橋をかけ、二つのデパートを結びつけた手腕は、そんじょそこらの財界人の政治力の及びもつかんところだろうし、長野県上田市の水呑百姓の小倅が、今日の大を成すにあたって、小林一三の電鉄経営法をそっくり真似した上、指導を乞うた心臓ぶり。時計王服部金太郎の女婿篠原三千男を仲間にひき入れて、財界の風当りをかわしたあたりのやり口は先生のご託宣通り。しかも『これは大器晩成の相で、生きていればいるほど事業は大きくなる』という。

『この男は女にはほれない。好きになっても決して自分を崩さぬ利己主義的なところがある。それで問題を起したことがあるはずだが(三角関係で築地金田中の女将金子とらが自殺未遂したことがある)そのエゴイズムが事業に成功する原因でもある。まァ、死ぬまで話題をふりまく、易者にとっても、読者にとっても面白い男じゃな。アッハッハ…』





都電と架線柱に挟まれて

待ち客三名死傷

ポイントの切違え 巣鴨で脱線の奇禍

二十五日朝七時三十五分ごろ豊島区巣鴨二の四二先都電巣鴨車庫前停留所で、巣鴨発志村行都電＝運転手武井正久(四二)＝がポイントの切り間違えで脱線、都電を待っていた板橋区志村長後町一の二九会社員石黒健太郎さん(三五)は胸、頭などを架線柱と都電にはさまれ即死、同区板橋八の六六三第一生命勤務大野昭子さん(三五)は右足骨折で重体、同区志村前野町八一会社員荻島明さん(四二)は指に前治一週間の傷を負い、石川病院に収容された。

線路工事中はねらる

二十五日午前零時ごろ国電五反田駅構内で線路工事中の港区西芝浦三の一特殊金属工業会社工員山田三郎さん(三四)は誤って品川行回送機関車(杉山準治運転士)にはねられ、即死した。

坊や轢き殺し逃走

二十五日午前八時十分ごろ渋谷区代々木富ケ谷町一五七一中国大使館警備員田富士郎さん(四三)の四男正敏ちゃん(三つ)は自宅付近の同区代々木深町一六五先路上で遊んでいたところ代々木方面からきたネズミ色中型タクシーにはねられ頭を強打即死した。タクシーはそのまま逃走したので代々木署で捜査している。

中央線の事故

国鉄本庁への連絡によると二十五日午前七時三十五分ごろ中央線吉祥寺駅で浅川発東京行六一六A電車＝山口建之運転士(三五)＝が車両事故を起し二十六分延発した。

穴吹ついに南海へ

獲得大騒動に終止符



穴吹選手

舞台を東京から四国に移してプロ野球界はじまって以来といわれる激しい獲得競争を演じた穴吹選手も二十四日、とうとう予想どおり南海入団が正式に決った。この数十日間同選手獲得のために高松市に集まった球団関係者は、かって例を見ない"バカ騒ぎ"を演じた。同選手にたいする契約条件も阪神の手取一千万円(契約金)月給手取り十五万円を筆頭に、毎日九百万円(手取り)中日七百五十万円(手取り)南海、西鉄とも



簡素化結婚の記念樹を植える新婦石原みや子さんと新郎神部昇さん

妻を絞殺し自首

浮気な失職男 別れ話から逆上?



殺された弘子さん

二十五日午前七時半ごろ新宿区新宿二の一八飲食店『鐘路園』＝経営者竹村一郎氏(五八)＝止宿の無職小原恵一(三五)が知り合いの同区花園町四五新村方無職平野幸子さん(三五)に付き添われて『妻を殺した』と四谷署に自首して出た。

警視庁鑑識課で調べたところ同飲食店三階南側の洋式三畳間ベッドの上で小原の内妻無職風間弘子さん(三一)が毛糸で編んだネクタイで絞殺されていたので小原を殺人容疑で逮捕した。小原は『自分も死のうと煙草を食べた』といい、苦しみだしたので慶応病院に収容した。

小原の自供によれば一昨年秋ごろ新宿二丁目の特飲店で働いていた弘子さんと知り合い間もなく同棲、弘子さんの実家会津若松市の小原の郷里の北海道で暮していたが去月中旬ごろ上京、同飲食店にさる八日住込んだ。小原は元クリーニング職人をしていたが最近失職、金に困りながらも新宿二丁目や花園町などで遊ぶので夫婦仲は悪かった。最近特飲店の女となじみとなり、昨夜も弘子さんが別れ話を持ちだして派手な夫婦喧嘩をしており、同署では三角関係のこじれから発作的に絞殺したものと見ている。

手を結び合い心中

女は死亡 男は重体 結婚できぬを悲観

二十五日朝八時ごろ、台東区浅草聖天横町一九皮革商伊勢勝商店経営者和田幸一さん方二階六畳で店員新藤恵信さん(二四)と同区馬道一の七飲食店『酒の店』こと岡本ふじさん方女給鈴木幸子さん(三)が手と手を結びあわせ柳刃の刺身包丁で頸動脈を切り、苦しんでいるのを女中が発見、付近の中央病院に収容したが女は出血多量で死亡男は意識不明で重体。浅草署の調べによると枕元にお互いの両親姉などに遺書三通があり『悪いことをして申訳ありません。あの世で一緒になります』とあり、結婚できないのを苦にしたもの。

高校生 ガス自殺

三越の試験に落ちて

二十四日午後七時ごろ中野区本郷通り一の五都電車掌津久井繁三さん長男和夫君(一八)＝中大付属杉並高校三年＝は自宅六畳間のフトンの中で台所から引いたガス管をくわえ自殺した。中野署の調べによると枕元に両親宛に『三越の就職試験に落ち申しわけない』との遺書があった。

オートバイ泥30台

三人組 ご用

愛宕署では二十五日朝までに中央区湊町一の七元オートバイ修理工S(一八)と品川区大井原町五一八八同N(一八)の両名を窃盗容疑で、品川区五反田二の三一三オートバイ修理業金膚圭(四三)を故買容疑でそれぞれ検挙した。調べではさる五日港区新橋七の二先で東京美桑ジーゼル＝社長宮内文四郎氏(四三)＝のホンダドリーム号(十万円相当)をSが盗みNが金に売り飛ばしたほか昨年十二月から検挙されるまで銀座、丸ノ内、日本橋などのビルの前に停めてあるオートバイやスクーターを専門に約三十台三百万円の盗みを働き遊興費に使っていた。なお金はS、Nの盗んできた車を捨値で買いとり新しく組み立てて半値で売り飛ばしていたもの。

……花嫁、乳牛とゆく……

○…乳牛をつれてお嫁入りという変った結婚が山梨県北巨摩郡長坂町でこのほど行われた。話題の新郎新婦は長坂町議神部達さん長男昇さん(三一)と同郡武川村農協事務石原直さん二女みやこさん(三三)

○…新郎は農業改良研究会を主宰するだけに結婚式の簡素化を叫んできたが、新婦もこれに共鳴、結納や式などを全廃、花嫁支度よりまず収入の道というわけで乳牛一頭をつれ輿入れとなったもの。

○…入籍手続が終ったあと新郎新婦の手で記念植樹が行われめでたくお開きになったが、この披露宴は自家製折詰に赤飯と酒一合、〆て一人前百六十円ナリだった。(甲府発)

独眼灯

○…二十四日夜八時から二十五日午前零時にかけて港区赤坂一木町八二歌舞伎俳優市川猿之助丈＝本名喜熨斗政泰氏(六七)＝方から衣裳など十数点(五十万円)が盗まれているのを家人が発見、赤坂署に届出た。

○…犯人は同夜行われた同家の新築祝騒ぎにまぎれての犯行らしく、同丈に恨みを持つものの仕業ではないかとみて捜査している。

○…猿之助丈はいま舞台で石川五右衛門を演じているが、『ドロ棒役に回るおれがどろ棒に見舞れたとは残念至極…』と台詞もどきに猿之助丈くやしがっている。

【後楽園】

二十六日を初日に連続四日間後楽園競輪が行われる。スタートは平日正午、土、日曜は十一時で十一レース。今回の出場選手はいずれも健脚連で終始熱戦が予想される。一応優勝候補は後藤欣、渡辺輝、醍醐貞、日里政、神山正信らだが、うち渡辺はレースの駈引としぶとさを見せてきたので大いに期待される。恐いのは最近不調とはいえその強脚からくり出す素晴しい逃脚の中村満で先行有利なこのバンクだけに最も警戒される。このほかマークの磯部一(スピードよい)小花二、インコースをつくに巧みな安野勝らがいる。また松戸で余裕ある勝振りを示めした青木重も見逃せない存在。連穴は小林三、斎藤正、倉林良。(陸雷京一)

あすのスポーツ △野球 日本産業別(十一時半後楽園)△レスリング 関学秋季新人戦(一時青山)△ボクシング 大貫対横山＝六回戦他(六時半王子)△ラグビー 関学対抗＝東対立(二時半秩父宮)△競馬 東京、川崎

【東京 六日目】アラブ三才特別カンダオー強し

五次東京もいよいよ終盤戦、この府中競馬場とも来年三月までお別れということになる。

△アラブ三才優勝(第十一千二百米)カンダオーは五次中山の二日目以来無敗街道を驀進しているが、このレースにもその敵はいそうもない。一着は同馬でどうにも仕方あるまい。興味は二位争いにおかれるわけだが、ミスヒカルが出れば同馬が最有資ながら、もし休養して中山に備えれば、ペンケイ、フジミナトの争いになる。これまでの成績を総合するとフジミナトの方がよいが、五日目は期待されながら三着に敗れている。これが調教代りになって今度は本来の鋭鋒発揮も予想されるが、三日目のベンケイの鮮やかな勝ちっぷりからは同馬に強みを認むべきではないか。最近脚質が逃げ型から追い込みに変ってきたことは注目される。カンダオー、ペンケイ、ミスステーツの順、穴フジミナト

△一般レース予想 ①タマヒカリ、ケーエス、コンリュウの順、穴アロハ②アイゼン、キングスピード、ミナトリュウの順、穴ダイワヒカリ③メーフラワー、ダイニノブタカ、ゴールドストリークの順、穴パトリシア④タカヨシ、タツギク、ダイニミノルの順、穴トキノメーゲツ⑤トーヨーライト、イワツバメ、クラサクラの順、穴カズヒカリ⑥セイウン、ローヤルダツシユ、ホウネンの順、穴ヤマトヒカリ⑦ロングラン、ブラツクペルの順、穴フクリユウ⑧コマカゼ、ハクピ、サチクモの順、穴セルテート⑪ナギサ、カブトスイホウ、ミンクスの順、穴コアミ(松本)



何しろ、平均年令六十二才という老人部隊です。よく世間で、亀の甲より年の甲などといわれます。

なるほど年寄りには、五十年六十年という豊かな人生経験から割りだした老練な手腕と円満な常識があり、だからこそ、国の仕事をまかせる信頼感もでるのでしょうが、一方では今いちばん大切な青少年の問題にどれだけの理解があり、どんな政策をたててくれるかが大問題です。

今度の大臣で、小唄や浄るりは知ってるだろうが、ジャズやマンボを、たとえ踊れなくても、理解できる人が幾人いるだろうか

若い人たちの心配はこれです。別にマンボを踊ってもらわなくてもよいのですが、青年層から遊離した政治感覚なんておよそ無意味です。



……といってせっかく選任された大臣諸公にケチをつけるわけにはゆきません。

……が、とにかく、健康的にも感覚的にも、ぐんと若返って、精神と肉体の平均年令が四十くらいになってくれないことには困ります。

……で、このところ、若い人たちの間に、さかんに、閣僚若返らせ運動の気運がおこりつつあります。

閣僚よ、青年の如く若く健やかであれ……。そして、若さと健康のエッセンス、デポ男性を寄贈しようと内々に計画がすすめられている由。

デポコント

閣僚若返らせ運動

やるの、やらないのと、さんざすったもんだの末、保守合同もやっと実現し、第三次鳩山内閣の顔ぶれもどうにかきまりました。

総理大臣鳩山一郎君、実に若々しい坊っちゃん坊っちゃんした名前ですが、本年とって七十二才。

その他の閣僚を見てみると、七十才代が牧野法務に清瀬文部、通産相の石橋湛山に高碕経済企画庁長官、北海道開発庁長官の正力松太郎の六人。

六十才代が重光外相以下七人。

五十才代が河野農相を筆頭に四人

四十代が根本官房長官の四十八才に林法制局長官四十五才のたった二人きり。

続 情炎の千代田城 (310)

岩崎栄 作
寺本忠雄 画

天城の雲（三）



[illegible]

道でなくほかにも行ける道知らない』

『はい、山越しの近道がありますだ』

『そう、じゃ急いでね』

と、その道を行く途中で、お静の問いに応えたこの娘の身の上だが、父親は、天城の山に鹿や猪を狩る猟師だった。小心で律儀ものだが、バクチが好きで、いささかの稼ぎをダルマの紋次に、ほとんど打ち取られていた。イカサマバ

[illegible]

とあと、あの滝の裏にゃ鬼の岩屋という洞穴がござえますけんど』

『このごろになって、また？』

『はい』

修善寺の宿の外に来た。もう夜明けに近いころだった。宿の勝手にはもう灯がついて、何かゴトゴト庖丁の音をさせていた。

お静は、お市を露路に待たせ、忍びの術で八百定たちの寝ている部屋に音もなく入り込んだ。と、片魚半がムクリと起き上がった。

[illegible]

音を操して。お静は微笑

[illegible]

八百定も起き上がった。

六本がセット入り

山崎所長以下大はり切り

……（上）……

【京都にて与倉記者】山科の里、嵐山、嵯峨野の辺りに秋色の深い十一月半ばのきょうこのごろ、京都の町々は修学旅行の生徒たち、刈入れを済ませた農村の観光客で賑わっている。観光地京都の旅館や土産物店、料理店などはホクホク顔で遊楽客の送り迎えに忙しい。そして時代劇を作る東映、大映、松竹の各撮影所もまた、これは正月準備のテンテンコ舞の中に、日曜、祭日吹き飛ばしの明け暮れを過している。

東映

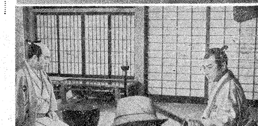
松竹、大映、東映のうち一番活気に溢れているのは六本の作品が入っている東映だ。五周年記念と銘うつ『赤穂浪士』はじめ『黒田騒動』『青葉の笛』『忍術左源太』『幽霊城のせむし男』『怪盗夜泣丸』がゾロリ。さらに数日中に、『黒頭布』がクランク・インで転手古舞。日曜も祭日もなく、ロケバスが出たり入ったり、東京からスターが飛行機で飛んで来たり、トレーニングの覆面武者が白馬に打ちまたがって撮影所の門をかけ抜けたり、オープン・セットが建ったり壊れたり、といった具合に朝から晩までガタガタしている。いまや大松竹と肩を並べる大会社だが、山崎真市郎所長が着任した三年半前はたった五千坪で、新任のおミヤゲとして彼が社長から貰って来たものはNCミッチェル撮影機が一台だった。それが今日では敷地は三倍の一万五千坪となり、さらに五千坪買入れて、四ステージを増設の予定。カメラもアイモ二台を含めて十二台に増えた。全ステージには冷暖房の装置を備え、俳優部屋にもガス・ストーブが赤々と燃えて、東京練馬在のお寒い東京撮影所とは段チだ。東京なら日活多摩川の施設に相当する立派なもの。山崎所長の部屋は本館の二階にあるが、この男『こんなところに納まってちゃ仕事にならんですよ』と一時もジッとしていない。絶えずヒョコヒョコとそこら中を歩き回る。食堂の食いものの栄養を注意したり、大部屋や美術課、結髪室などに顔を出したりしながらいろいろ改善すべき点を見つけて、彼のいわゆる〝高等小使〟の役目をマメにつとめている。夜になると会議や接待のないときはつとめて一パイ屋のノレンなど潜って、裏方連中と焼酎を汲み交すという。先ずはその昔の日活京都撮影所長故池永浩久氏の俤に習う名所長ぶりを発揮している。

『笛吹童子』『紅孔雀』式の安直なシリーズもので肥え太った会社だが、いつまでもこれではいかんとは思っているようで、本年春には、戦後最優秀の時代劇の一つ『血槍富士』（演出内田吐夢）もここで作られたが、いま撮影中のイーストマン東映カラー『赤穂浪士』（演出松田定次）も五周年記念映画にふさわしい良心的な技術研究の成果が各面に反映されている。例えばカラーである。二年半ばかり前『日輪』をコニカラーで撮ったときにはひどい色だった。これにこりて以来今日までカラー作品は一本も撮ってない。この間他の各社では何本も天然色を撮っている。だからといって技術的な立遅れを示すわけには行かないとあって、この四月ごろからメーキャップ部では殊に顔の色にそれぞれ人物の個性を現わすニュアンスを出そうと苦心し、カメラ部門では和田三造、岩田専太郎の二氏と絶えず相談して試作フィルムの色を検討、また照明部もその度に精密なデータをとるといった苦心を重ねて来た。

討入りといえば雪のシーンだ。膨大な量の雪粉が要る。オープン・セットの吉良邸に降った雪のツブを手に取ってみるとプラスチックの粉だ。これもガラス、石灰、ドライアイス、綿屑などなど、あらゆるものを試みた後にプラスチック粉に決定されたもの。討入りシーンの撮影には先ずセット前の道に晒の大布を六〇反使って、その上に二トンものプラスチック雪を撒いたわけだが、右太右衛門始め四十七士の面々がその上を歩き回ると、ふみしめる音まで粉雪特有なあのクックッという快適を立てていた。

全体に、いままでにない苦労をさせられています。これはいわゆる〝忠臣蔵〟とは違って、ニヒルな浪人堀田隼人（大友柳太朗）吉良方の家老千坂兵部（小杉勇）それに庶民階級を代表して大泥棒蜘蛛の陣十郎（進藤英太郎）という三人の目を通して、むしろ四十七士を批判的にながめたものです。しかし客にしてみれば〝忠臣蔵〟のサワリは見たいでしょうし、それを見せつつ、作品に深味を持たせなくちゃいけないと思うと大変ですよ』といっていた。製作費も予算が八千万円だったのが、いまではほぼ一億五、六千万円と二倍にハネ上り、東映始まって以来の豪華作品になりそうだ。（つづく）





『赤穂浪士』のセット撮影スナップ（上）は一足先にセット入りして千恵蔵待ちの右太衛門、（左端）（下）はいよいよ両重役スターの対決、テスト風景、千恵蔵（右）と右太衛門（左）

〝あっさり肩すかし〟

気をもませた千恵、右太の顔合せ

内田吐夢監督の『黒田騒動』で主役を演っている千恵蔵が、九条家御用人立花左近役で、右太衛門と顔を合せたときは大変だった。何しろ両方とも重役同士、おまけに余り仲がよくないと来ている。そこで日曜にも拘わらず所長も出勤して一方ならぬ気の揉みよう、新聞雑誌の面々がこれまたその仲の悪さを見届けようと期待してセットを見に来る。いよいよ撮影開始となるまでの仕切りは両横綱ともなかなか長くて気をもたせたが始まるとアッサリしたもので、カメラ移動の合間も右太衛門がサビのある声で祭り太鼓の話を始め、千恵蔵がそれをまた興味深く笑いながら聞くという風で〝犬〟と〝猿〟を期待して集まった面々は見事ハナを明かされた格好だった。演出の松田監督は、両巨頭の顔合せはこれで四本目だから馴れており『脚本に従ってやるだけですから何でもないことです』とアッサリしたもので『むしろこの作品

新長官就任

このポストばかりは予備、後備がワンサと出来た。

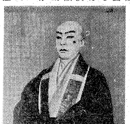
―自衛隊

手不足の悩み

かたばみ座・二の替り

芝居みたまま

○…良心的な出し物を並べながらお寒い入りなのは哀れ、いま一ふんばりが大切というところ。門三郎の『河内山』玄関は押揚に欠けているのが難だが、篤三郎の大膳とのやりとりも即妙で気がきいており、秋之丞の出雲守も及第点。吉三郎の家老はもう少しシャンとしてもらいたい。竹若の『実盛物語』は派手一本の演技がうまくはまり快調。新車の瀬尾、門三郎の小万も適役だし、鶴江の太郎吉が小まっちゃくれながらもうまい。○…鶴蔵の『江島色懺悔』は生島（竹若）との役者狂い、高遠へ遠流と決り月光院（小主水）との別離をするまでを三場にまとめた無理がたたって、各場分断されて味が薄く、人手不足なのもこの題材の消化不足に影響している。『おけさ桜』は気狂いをよそおって、父の仇、悪人の目明し（新車）を討つ百姓娘（小主水）の苦心を扱い、藁束を投げ合う殺し場など趣向は入り組んでいるがパッとしない。二十九日まで。（杏）



門三郎の『河内山』

立体浪曲『地獄門』

春日井梅鶯、加寿子親子が発表

浪曲生活三十五年、大御所の一人として人気のある春日井梅鶯が、新しい浪曲を創りだすためにもう一度若手になった気持で、再出発を決意、第一回の試みとして近く立体浪曲（仮称）『地獄門』を娘の加寿子と組んで発表することになり話題を呼んでいる。

梅鶯は独特の節回しと声量のゆたかさで『天野屋利兵衛』『越後獅子祭り』『浅太郎月夜』などで長い人気を保っているが『失敗してもいいから新しい境地のものと取っ組みたい』と考え、戦後女流浪曲のホープとして売りだしてきた一人娘の加寿子にも相談、いろいろ考えた末に、ラジオ演出家で歌謡曲入り浪曲など型破りの浪曲作家としても知られる内山惣十郎氏に台本執筆を依頼した。内山氏も梅鶯の心意気に打たれ、九月中旬来構想を練った結果、このほど立体浪曲（仮称）なる型破りの作品を完成した。

内容は明治二十一年歌舞伎座で九世団十郎と先代福助が演じた『文覚勧進帳』（依田学海作・竹柴賓水脚色）の台本を基に、袈裟と盛遠の姿を現代的に描いたもので、題名は便宜的に大映映画と同じ『地獄門』とした。

この新形式の浪曲は、親の梅鶯が盛遠の節（ふし）とタンカ（せりふ）を、娘の加寿子が袈裟を掛け合いで口演するもの。来年正月QRから放送の予定で、いま梅鶯親娘は千葉県鶴舞町の自宅で内山氏を混えて熱心にけい古中だが、この種の試みは梅鶯が初めてだけに関係者の間で評判になっている。





【写真は梅鶯と加寿子】

新劇ドサ回り ⑨

新制作座・歴史座の巻

凄んだヤクザが感激

舞台を地でいった『泥かぶら』異聞

（真）山美保という座付役者のいる新制作座で、彼女の書いた『泥かぶら』がそろそろ上演回数一千回を迎える。これは今日までの日本の新劇の歴史の中で最高のものだ。新協を抜けた十名足らずがいまの劇団の前身〝ヴェリテ・セルクルたぬき座〟を創立して以来五年になるが、この間ほとんど〝ドサ回り〟で過し『大衆の中で、大衆と共に、私達は演劇を創る』というスローガンをかかげて精力的な旅公演をやっている。大当りの『泥かぶら』も、映画になった『浮草日記』（原作『市川馬五郎一座顛末記』）もみな旅の間に、庶民の生活の中から拾い出した問題をとり上げ、真山がワラ半紙に鉛筆で書きなぐったものが座のレパートリーとなった。

ことしになってから六月末までの百八十日が九州巡演。さらに九月から十二月までが同じく九州、山陽、関西という風で、一年を通じて東京にいたのは三ヵ月だけという有様。大ていの場合二十日間も地方に出るとすさんで来て不平不満が出、酒の失敗があり、男、女優の火遊びが始まるといった具合だが、ここは共産党とは違った意味で〝鉄の規律〟があり、従ってハメを外した失敗談などは見当らない。

（春）の九州巡演中、熊本県教育委員会のすすめで、天草本島の本渡（ほんど）市へ渡ったときのこと。土地のヤクザ芝居の連中が『なぜ仁義を切ってあいさつに来ねえんだ』とすご味を利かして脅かしに来た。万一の場合を心配した県の方でも、警察に手配してくれたりしたが、その連中が『芝居を見せろ』といって来た。演しものは醜い顔の女の子が美しい心の持主のために、周囲の人々がみな浄化されるという『泥かぶら』だった。ところがそのヤクザ連中、一般の客よりももっと感激してボロボロ涙を流し、親分以下ゾロリと目をはらしたまま楽座に来て『こんなすばらしい芝居は初めて見た、それを知らずに意地悪をして済まない』というわけで、こんどは逆に客集めをしたり、至れり尽せりの好意を示してくれたというエピソードもあった。

（新）制作座の場合は、今日までに七、八十万人の観客を動員するほど地方では大受けをしているが、それでも本隊が行く前に、先乗りの経営部員が綿密なスケジュールを立てておくわけだ。向うに行けば何とかなるというようなズサンさでは必ず失敗する。そのいい例が歴史座だ。ここの若い連中は昨年新演を退めた古沢弘、石田二郎、渡辺篤枝、平野優子などに、以前ぶどうの会にいた香取正紀、小川徳一郎、行田正子などが旗挙げしたものだが、七月に信州方面へ半月間のスケジュールで、裏方を含め二十名位で出かけたものだ。演しものはセルバンテス『恋の見張番』森田草平原作『細川ガラシャ夫人』の二本立。使用料の安い公民館などを使いながら、岡谷から始めて信濃大町まで数ヵ所で自主公演を行った。何しろ目算違いが多くて、最終の大町などでは全員必死の巻。香取が馬に乗り、あとはゾロゾロその後について、笛、太鼓で俳優たちがチンドン屋をやり、チラシを配って『ねえ、今晩見に来ておくれよ、頼むよ』てなもので、この辺り『市川馬五郎一』に出て来るラストあたりにそっくりの場だった。こういう有様なので、宿も木賃宿なら、食べるものと来ては、麦飯におカズはもっぱらキュウリというキリギリスなみ。東京へ引上げる際に危く差押えを食いかかったが、やっと切符代だけ残してもらい、その代り新宿までの十時間余りを飲まず食わずの哀れさだった。そしていまやこのグループも解散一歩前。劇団経営とは、若さと意気だけではやれるものでないのだ。（完）



名選 都々逸

石井きんざ選

逢い初めも別れた時も今ごろだった　も一度逢いたい秋の夜　船橋・清水義代子

あなたの自由に今夜はなったからには添うばかり　浦和・尾迫通夫

日向ぼっこに老いの背丸いあたしにゃ宝に見える母　東蒲田・大塚肇涼

怨っちゃいやよの前置きいって派手に酔ってるすねている　深川・浪江権児

旅の女の身の上ばなし　更けて聞く夜の秋の冷え　長岡・かつらぎ緑

◇

傘でお顔が見えぬが惜しい呼んで見ようか並木道　選者

今年の人気女性

指名投票用紙

投票者住所氏名	人気女性名

送先・東京都京橋局区内・内外タイムス社指名投票係・締切12月30日

内外タイムス社

はと笛

▽…愛児誘かい事件のほとぼりもようやくさめ、またまた活躍しはじめたトニー谷も、人を笑わせているばかりが能じゃあるめエ、たまには自分でも楽しまにゃァと、先日エノケン、有島一郎と三人で柳橋の某料亭へあらわれた。

▽…キレイどころにとりまかれ、午前二時までとは飲みも飲んだり。スッカリ酔っぱらって表へ出たが、夜風にあたってフト思いだしたのが家のこと。『モシモシ、いますぐ帰るからネ。お茶漬とお風呂の用意をしておいてネ』の優しい電話の声に、もたれかかっていた姐さん連、逆にあてられてヤクことヤクこと。



【写真はトニー谷】

ラジオ・プログラム　26日（土）

★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニツポン★ 1310KC
9・45 青いノート 網島初子 木崎豊 友部光子	7・30 南極探検の話 英国王立海洋研究所長デイーン	8・35 劇 花ふたたび	8・10 おしやべり 楠トシエ	8・00 サザエさん 市川すみれ
10・15 わが家のノート	8・30 ヴアイオリン独奏 シエリング	9・05 ウツカリ夫人 タバコから煙突までの巻	9・30 青春のあるところ	9・45 丹之助紅 佩治郎
10・50 美容体操	10・45 ルポ 製薬工場訪問	10・10 名作アルバム 一千回記念懸賞作文朗読	10・40 劇 君ひとすじに	10・00 劇 花は燃えている 高千穂ひづる
11・15 レベツカ 櫻村治子			11・15 録音風物誌 晩秋の八郎潟	
0・30 お笑い三人組 女中さん入用の巻 貞鳳 金馬	0・30 職場の音楽	0・15 落語 寄合酒 桂小金治	0・00 落語二題 照蔵 柳昇	0・00 柳家金語楼新作お笑いホール 新生活運動
1・05 エツサラ母さんホイ坊や 七尾伶子 田村毅	1・00 名曲キヤビネツト	0・30 原孝太郎と東京六重奏団 歌 丸山臣吾	1・35 歌謡コント 春日富士松	1・00 劇 秋晴れの家
2・05 東フイル 指揮グルリツト シベリウス作曲ほか	2・00 若手演芸会	1・25 歌 藤沢嵐子 ホセタンテイス テイピカ東京	2・00 録音構成 帰らざる漁船	1・35 やりくりチヨ子さん
4・15 赤平市 地元連中	3・00 伽羅先代萩 山城少掾 鶴沢藤蔵	1・40 大菩薩峠 桃川如燕	3・00 三時は音楽で	3・00 芸術祭参加 しかし熊は歩いてゆく 松本克平
	4・00 野球 関大対立命館大		5・30 空の向うに何があある	4・00 座談会 都の台所
	4・30 全国学生相撲選手権			
6・00 少年少女音楽会	6・30 スタジオ演芸会 ピアノ独奏 渡辺千世	6・25 ぴよぴよ大学	6・00 少年宮本武蔵	6・00 リズム・ア・ラ・カルト
7・30 婦人議員二十の扉 山下春江 戸叶里子ほか	7・00 映画音楽 解説 清水光雄	7・30 どうしまシヨウ 小野田勇 三木のり平	7・30 浪曲 平手造酒 玉川勝太郎	7・30 劇 お嬢さん女中
8・00 なつかしのメロデイ 松田トシ 川田正子 孝子	8・05 サンサース作曲 夜 名古屋放送合唱団	8・00 コメデイ 森繁久弥 草笛光子	8・00 素人ジヤズのど自慢 水の江滝子	8・00 フライング・メロデイ ゲスト 安西郷子
8・30 とんち教室 ゲスト 小川哲男 青木先生	8・20 NHKポツプス	8・30 荒神山 広沢虎造	9・00 松竹新喜劇 渋谷天外	8・30 雪村いづみシヨウ 松島トモ子 千葉信男
9・15 浪曲 磯川兵助功名噺 東家浦太郎	8・45 スポーツ・シヨウ	9・10 コロムビア・アワー	9・30 劇 この世の花 丹阿弥谷津子 山岡久乃	9・00 劇 太郎行くところボデイ・ビルあり 大川太郎
10・15 落語 三遊亭金馬	9・00 邦楽鑑賞会	9・40 劇 雷電	10・00 大学受験講座	9・30 新国劇 月形半平太
	11・00 子供ノイローゼ	10・15 絵のない漫画 近藤日出造	11・00 DXニュース	10・00 キング・アワー

商談の結びの神

は『馬上盃』

歳末の商談となるととかくお互の利害がからむから、難かしいもの、だがそこに酒が入るとさしつさされつ案外スムースに進むものだ。そこで会社の部長さんや課長さんあたりは場所の選定に毎度御苦労の様子で『やっぱり銀座に越したことはないんだが、何しろ高くてね』などとすぐおっしゃるが、まだまだ銀座を知らないというもの、銀座にも七丁目『馬上盃』のようなのがあるのを御存知ないか。

その『馬上盃』だが、成吉思汗が出陣のみぎり用いたといわれる『馬上盃』を店の名に、また馬上盃をかたどるなど酒亭の元祖という〔illegible〕って、元禄風独特の田舎〔illegible〕は風趣共々第一流。名物の焼をはじめ日本酒なら何〔illegible〕っている上、数十人の女〔illegible〕達者で美人で色気を漂せ〔illegible〕う三拍子も揃った芸者は〔illegible〕姐さんばかり、どんな〔illegible〕しいお客さんでもお気〔illegible〕こと間違いないし、お〔illegible〕足するのが商談のコツ〔illegible〕るなら『馬上盃』は絶対〔illegible〕められる。なおこれか〔illegible〕ろそろ忘年会シーズン〔illegible〕（57）三三〇五をメモ〔illegible〕くと何かと便利だろう

アルプスの情味満点

新橋の山小屋バー『はた万』

学生やインテリにモテそうな山小屋酒場――それが新橋駅前カストリ横丁の『はた万』だ。一階はスタンド式のバーで勤め帰りのサラリーマンの憩いの巣腕のいいバーテンがつくるカクテル一杯を一時間もかかってナメながら、風流譚などにひたり切っている図が多い。それ程、親しみ易く、気軽な雰囲気。頬っぺの赤い可憐な乙女がシェーカーを振るのもこの店の魅力の一つだ。

二階はガラリ趣向を変えた荘スタイル。炉には薪木をくべるし、くすびたランプのロマンチック。荒木の天然の手彫りのテーブルなど、まで出掛ければアルプスの満喫出来ようという次第。い人など同伴で一夜の愉味わってはいかが?。

[illegible]